



高田ルリ子さん(54歳・手話通訳士)

「もっと上手に」興味深く

手話通訳士の高田ルリ子さん(54)は仙台市泉区にどうして手話を始めたのかな。手話通訳士を目指した理由や印象に残る仕事について話してもらったよ。

(1面に関連記事) 私が手話を始めたのは22歳の時です。耳が聞こえない方と知り合い、手話を教えてもらったのがきっかけでした。手話を上手になりたくて、手話サークルや手話講座にも通いました。単語や文法を覚え、試みに使ってみると相手に伝わる。学ばずとも表現の幅が広がり、相手の手話もより理解できる。語学と似ていますが、



手話好きが高じて手話通訳士になった高田さん

英語は苦手なのに手話は楽しかったんです。最初から手話通訳士を目指していたわけではありませんが、「もっと上手になりたい」と手話の資格試験に挑戦する中で、手話通訳にも興味を持つようになりました。

手話通訳の仕事が始めた頃、印象に残る出来事がありました。耳が聞こえない人に付き添って病院を受診したときのことです。初めて手話通訳を利用する方で、お医者さんに「話がスムーズに伝わって良かったです」と感謝されました。

手話通訳って、耳が聞こえない人のためのものって思われがちですけど、実は耳が聞こえる人のためにもいるんです。お医者さんにも「通訳者がいてありがたかった」と思ってもらえたのは、私にとってもうれしい経験でした。

たかだ・るりこ 青森県八戸市出身。仙台市の仙台歯科衛生士学院(当時)卒。手話奉仕員、手話通訳者の資格を取得した後、2022年度に手話通訳士の試験に合格。15年から宮城県聴覚障害者情報センターで勤務。

私が手話通訳の世界に入った頃に比べると、耳に障害がある人への理解は広がっているように感じます。でも、まだ障害者が困っている場面を目にしますし、手話通訳者も足りていません。

子どもたちに手話通訳者を目指してほしい気持ちはありませんが、目指さなくても手話を覚えてくれる人が増えるだけでもうれしいです。まずは簡単な手話でいいので、楽しみながら覚えて使ってほしいと思います。

学力UPのキギは国語力!!

河北新報のコラム「河北春秋」を活用した学習法をご紹介します。ベテラン記者が執筆した文章を読むことで、豊かな言葉や表現が身につきます。また旬の話題や時事問題にも強くなります。

河北春秋 3ステップ

STEP 1 基礎力アップ
書き写す
「河北春秋」の文字数は約500字。書き写すことで、**作文力**や**読解力**、**漢字力**といった「**国語力**」が向上します。また、分からない単語を調べると**語彙力**もアップします。

STEP 2 論説文対策
100字で要約する
「河北春秋」の要約は**論説文**対策にピッタリ。読み解いて分かりやすく伝える文章の練習になります。



STEP 3 小説問題対策
自分の意見や感想を書く
自分の考えを**50字以内**で書きましょう。小説問題は文章の行間を読み、自分の考えを制限字数内で簡潔にまとめる練習が役立ちます。

チョイ読みで時事力UP
入試では、新聞記事を使った出題が増加傾向。新聞をめぐり「見出しだけ」チェックしましょう。世の中の動きを効率よく知ることができます。
「河北春秋」はここ!

新聞を

活用して

差をつけよう!

まずは**1週間**お試ください
ご希望の方に、「河北春秋書き写し1週間お試し版」をお届けします。また、河北新報をお読みでない場合は、新聞も1週間お届けします。右の二次元コードよりお申し込みください。



フリーダイヤル 0120-09-3746 受付 7:00~19:00



お問い合わせ 河北新報社 販売部 (平日10:00~17:00) TEL.022-211-1302 FAX.022-211-1188

※お申込みいただきました個人情報は、弊社と河北新報販売店で適切に管理し、商品の発送、各種ご連絡・ご案内に利用させていただきます。河北新報社のプライバシーポリシー(個人情報保護方針) <https://np.kahoku.co.jp/privacy.html>をご確認ください。